

経済成長とともに自動車保有率が向上している韓国・中国。この2国の洗車ビジネスの今をレポートします。



韓国 KOREA

今後、コーティングマーケット拡大の予感

一般的なガソリンスタンドでは洗車は無料

韓国のガソリンスタンドでは、洗車無料が一般的である。例えば今回訪問した店舗は、フルサービスで営業しており、レギュラー1ℓ当たり2,075ウォン(166円、3月14日現在)で販売している。一般的にガソリン販売と「整備」「コンビ



ニ」「洗車機による洗車」を運営している店が多い。「整備」はオイル交換、タイヤ交換、ちょっとした修理を行う。

ソウルは寒いが雪が積も

ることはあまりないようで、スタッドレスの需要はあまりない。オイル交換も専門店がある。車も壊れにくくなったため、整備部門の今後の伸びは期待できないようである。



また日本のコンビニの約1/5くらいのスペースでジュースやちょっとした飲食物、車の芳香剤などの小物も販売して

いる。しかしそれほど売れているようには見えない。「機械による洗車」は、あくまでガソリンのための販促であり、ガソリンをある金額以上入ると「洗車無料」というのがほとんどだ。お金をもらって洗車をするという概念は、ほぼない。



注目される「有料の手洗い洗車」

ところが一方、ガソリンのマージンが減り、ガソリンスタンドとしての収益が厳しくなっていることから、別店舗では「洗車の有料化」がはじまっている。有料洗車の中心は「手洗い洗車」だ。機械による洗車は傷がつくというイメージがあるため、高級車所有者や車好きな人は手洗い洗車を受けているようだ。今後、洗車の有料化は様々な店舗で推し進められていくだろう。



本来のコーティングが施工はじめられている

韓国では「コーティング」=「磨く」という意味である。車を洗車以上にキレイにしたいときは、車を磨くということになる。しかし一部店舗では、本来の意味の「コーティング」がはじめられ、市場が徐々に広がっている。クリスタルキーパーが今投入されれば、きつと受け入れられるのではないだろうか。

韓国にこれからのコーティングマーケットを見た

韓国の洗車・コーティング市場は、手洗い洗車やコーティングを求めている。これから機械による洗車から有料洗車に切り替わられていくだろう。10~20年前の日本を見るようである。

洗車はガソリンスタンドで受けるという概念があるため、特にガソリンスタンドの洗車がどんどん有料化されていくだろう。日本同様、キーパーコーティングのような技術と信頼を提供できる洗車・コーティングが伸びていくのではないだろうか？



中国 CHINA

洗車屋が当たり前にある風景

格差社会の中で育つ洗車サービス

中国は生活レベルの格差が大きい社会であり、裕福な人とそうでない人がはっきりしている。車を所有している人は一部の裕福な人で、移動の手段としても使用するが、値段が高く、かっこいい、キレイな車に乗っているというステータス性の方が意識として高い。洗車を自分でする人はほとんどいない。街にある洗車屋で洗車をする。



街の洗車屋をのぞいてみると…

中国の多くの洗車屋は、日本でいう商店街の並びのような場所に車2台程度スペースの狭い店内で洗車している。特に洗い方のマニュアルが決まっているわけではなく、とにかくキレイになればいい程度。洗車1台で10元(約150円)が上海の相場だ。ゲストルームのようなものはなく、お客様は「その辺で」待つ。日本のようにキレイにして長く乗るための保護というよりは、「かっこいい車を他の人よりかっよくするためのコーティング」といったような富裕層独特のプライドを刺激するようなフレーズがびっぴりだ。



中国のキーパープロショップ



キーパーコーティングを取り扱っているお店がいくつかある。私たちと同じマニュアル、同じケミカルを使用して、同じような店づくりをしている。今回、訪問したキーパープロショップは、洗車場が2台分、コーティングブース4台分、ゲストルームが完備されている。



施工する人数が異なる

ひとつ違うのは働いている人の数である。1店舗に10人程度作業員がいて、車1台に対して4人が一斉に作業する。そのため洗車と室内清掃の作業あわせて20分程度で終了する。マニュアルが徹底され、作業員全員洗車から室内清掃まで、とても上手だった。研磨を一台施工していた。やはり洗車以上のキレイは研磨という概念があるようだ。



ガソリンスタンドはガソリンのみ販売

ガソリンスタンドは基本的にガソリンのみの販売となり、洗車は行っていない。国営企業のため、価格も安定しているようだ。油外収益という考え方もなさそうだ。



新旧の洗車文化が混在している

中国を走っている車は、圧倒的に汚れる。空気は汚く、黄砂がすさまじいため、雨が降れば異常に汚れる。道路は舗装されているが、砂が多く下回りもすぐ汚れる。新旧の洗車文化が混在しているという感じだろうか？車を守るといふより、洗車してほしい。コーティングというより研磨でキレイにしてほしい。そんな価値観のあるように感じた。経済成長率7%のマーケット。これからどんどん車を所有する人が増え、車をキレイにしたい要望も増えていくことは間違いない。

